

常任委員会行政視察報告

震災の記憶を語り継ぐ「せんだい3・11
メモリアル交流館」(宮城県 仙台市)



余剰エネルギーを活用したグリーン
リーフの水耕栽培(福島県 相馬市)

複合商業施設「フラノマルシェ」を
視察(北海道 富良野市)



北海道 室蘭市役所での研修

兵庫県 相生市役所での研修



岡山県 総社市役所(姉妹都市)での研修

もくじ

- ▶ 視察報告(総務環境) …… 2
- ▶ 視察報告(経済建設) …… 3
- ▶ 視察報告(福祉教育) …… 5
- ▶ 委員会審査 …… 7
- ▶ 一般質問通告一覧 …… 10
- ▶ 議会トピックス・次号予告・お知らせ …… 12

令和5年度行政視察報告

市議会では市政の発展と向上のため、委員会ごとに視察目的を定め、先進的な他の自治体等を訪問して研修を受けています。

総務環境委員会

委員長	夫務源
委員	明ほり
副委員長	沢澤城
委員	野沢東
委員	木村月
委員	望島
委員	矢島
市側随行	田中裕之
企画部長	若岡康隆
議会事務局随行	
次長	

10月25日(水)

視察地

福島県 白河市

若者のまちづくり参画支援プロジェクト

研修会場

コミュニティ・カフェ

研修・視察内容

「EMANON」(エマノン)

白河市まちラボ学生プロジェクト支援事業は、白河市を研究や活動のフィールドとして活用する大学のゼミ等のグループに対し、その研究・活動費の一部を支援する事業です。コロナ禍の影響で、補助金の交付団体は多くはな

い状況でした。

研修会場のコミュニティ・カフェ「EMANON」(エマノン)は、築90年の古民家をリノベーションして、「高校生びいきの古民家カフェ」「高校生のためのサードプレイス」としてオープンしました。

- 1 居場所機能(職場でも家庭でもない居場所)
- 2 活動拠点機能(できることからやりたいことを引き出す)
- 3 社会関係の橋渡し、コーディネート機能(地域ニーズと高校生をつなげる)



「エマノン」での研修

以上3つを軸に活動し、「地域内外の人とつながる交流拠点」「地域情報が集まる地域の関係案

内所」として活用されています。

■茅野市での展開は

茅野市においても、「若者に選ばれ「まち」を総合戦略に掲げていることから、白河市における「若者のまちづくり参画支援事業」を展開する必要がありますと感じました。茅野市内には大学や高校もあり、市が関係している「CHUOらんどチノチノ」もあることから、白河市のように民と官が融合し、ある程度の距離を保ちながら、お互いをつまぐ利用するような基盤はできているように思えます。

しかし、運営主体の企画力、コーディネートができる人材の登用や育成、自主運営費の捻出方法などが課題となると考えますので、茅野市においても、若者が主体的にまちづくりに参加できる環境を整備するために、これらの取組を進めることが重要であると考えます。

10月26日(木)

視察地

宮城県 仙台市

①医療分野を主とした国家戦略特区への取組について

研修会場 仙台市役所

研修・視察内容

仙台市における「医療分野を中心と

した国家戦略特区への取組」として、中山間地域を中心とした慢性期の患者の医療体制について、「診療カー」を活用した「オンライン診療」の取組状況を視察しました。

診療カーを用いたオンライン診療は、医師も患者も高齢化が進む現状において、医師・患者双方の負担軽減を図り、持続可能な医療体制を確保するため、仙台市内各所に診療カーを派遣し、オンラインによる実証実験を行うものです。

実験では、商用の軽トラックを改造した低コストでの実験を行い、医師・看護師の使い勝手や、運転手はタクシードライバーにお願いするなど、様々な工夫が感じられました。

しかし、基幹病院の参加が不可欠であることや、診療報酬の是正、スタッフの育成、機器の開発などが課題となっており、国や地方自治体、民間業者のさらなる連携が重要だと感じました。

■茅野市での展開は

茅野市においても、医師・患者の負担軽減を図るためには「診療カー」の導入検討が望まれるところですが、対応する医師と患者の関係は「かかりつけ医」との位置づけが前提となることから、診療カーの当番医は自ずと限られてくると考えられます。また、仙台市の実証実験でも今後の展開は未知数であり、医師の負担軽減にはつながら

ないようにも感じました。

一方で、患者の負担軽減のため、茅野市で展開している保健福祉サービスセンターや、訪問看護の在り方について調査検討を進めることは有効であると考えられます。医師と看護師の体制での訪問であれば、特別に製作した診療カーやオンライン用の医療機器、通信機器などは必要ないように感じました。

②東日本大震災の被害状況及び復興に向けた取組状況について

研修会場 せんだい3・11メモリアル

交流館

研修・視察内容

せんだい3・11メモリアル交流館は、東日本大震災を知り、学ぶための場であるとともに、津波により大きな被害を受けた、仙台市東部沿岸地域への玄



せんだい3.11メモリアル交流館

関口でもある仙台市営地下鉄荒井駅に併設された交流スペースや、展示室、スタジオといった機能

を通じて、みんなで震災や地域の記憶を語り継いでいくための場所です。震災による被害を展示することよりも、記憶と経験を媒介に、コミュニケーションを通じて知恵と教訓を紡ぎ出し、未来へ、世界へとつないでいく拠点であることを主眼としている施設です。当日は館長他職員から、施設の概要や、実際に震災による津波とその後の避難生活を過ごした方からの説明をいただきました。

10月27日(金)

視察地

福島県 相馬市

再生スマートコミュニティ事業について

研修会場 そうまーHIGグリーンエネルギーセンター

ルギーセンター

研修・視察内容

そうまーHIGグリーンエネルギーセンターは、「水素を活用したCO2フリーの循環型地域社会づくり」をキーワードに、カーボンニュートラルと循環型社会の実現に向け、再生可能エネルギーの活用と、水素の製造から利用までの技術の実証研究を進めている施設です。

太陽光発電された電力を近隣の下水処理場やクリーンセンター(ゴミ焼却場)で利用。また、災害など周辺の停



ニジマスなどの陸上養殖

電発生時にも、これらの施設に蓄電池と太陽光発電の電力を供給するほか、燃料電池により、市の

災害時の拠点「復興交流支援センター」にも送電ができます。さらにこの施設では、余剰電力で水を電気分解し水素を製造する他、水素製造時に生まれる酸素を利用した魚類の陸上養殖、下水処理場の汚泥から循環肥料を製造、二酸化炭素と水素を合成させた合成メタンをコミュニティバスに活用するなど、多岐にわたる実証実験を行っており、震災前から相馬市にあった株式会社IHIと、震災復興予算を活用した官民連携事業です。

茅野市での展開は

相馬市のスマートコミュニティ事業は、震災復興予算と、株式会社IHIの事業所が震災前から存在したからこそ実現できた事業で、同様の事業を茅野市単独で取り組むとすれば、コスト面で非常に厳しいと考えられます。しかしながら、単独の運営が難しいとしても、可能性を検討することは大切です。

企業誘致の際などに、自然と共生し環境に配慮した考えのもと、太陽光発電エネルギーの活用の方針をプレゼンの一項目とするなど、積極的に当地域の自然環境の魅力を発信していくことも重要です。

茅野市は、豊かな自然環境を有する地域です。その自然環境を活かしたスマートコミュニティの構築は、地域の持続的な発展につながる可能性があります。具体的には、これらの点も考慮していくことが必要だと感じました。

経済建設

委員会

委員長	角木 智子
副委員長	佐々木 美智
委員	角内 直
委員	竹内 敏
委員	樋口 伊
委員	藤 伊

市側随員

都市建設部長 岩崎 研二

議会事務局随員

局長 藤 隆

11月8日(水)

視察地

北海道 富良野市

民間を主軸にした官民協働による複合的中心市街地活性化事業について

研修会場

富良野市役所及び複合商業施設フラノマルシェ

研修・視察内容

ラベンダー畑などの市街地周辺の観光地では賑わいを見せている富良野市ですが、平成19年の病院移転が拍車をかける形で、中心市街地の人口減少が深刻な問題となっていました。そこで危機感を持った地元経営者や商工会議所は、「市には任せてられない」と立ち上がり、「中心市街地活性化協議会」を設立し、民間主体による中心市街地活性化基本計画原案「ルーバン・フランノ構想」を策定しました。（ルーバンとは、ルーラル（田舎）とアーバン（都会）を組み合わせた造語）

そのメイン事業として、平成22年に病院の跡地を利用した複合商業施設「フランノマルシェ」を整備。整備の結果、中心市街地の観光客数は、整備前の約6万人から約60万人へと飛躍的に増加し、経済効果は約100億円となりました。



フランノマルシェ屋外にはイベント広場があり、市民の交流の場となっている

「フランノマルシェ」のこだわり

- ・病院跡地を富良野市がまちづくり会社へ賃貸し、同社自らの資金調達により、「食」をテーマとした複合商業施設を整備
- ・レストラン、食堂などは作らず、集客を施設内に留まらせない仕掛け（テイクアウトが基本）
- ・富良野ブランドの商品開発を併せて展開
- ・徹底的に地域資源を活用する
- ・「車」より「人」が大事 等

富良野市では、公民の分担がしっかりと分けられていることや、商工会・金融機関・農協を味方につけた失敗しない体制づくりなど、公民協働事業の成功事例を学ぶことができ、大変意義深い視察となりました。

「茅野市での展開は」

茅野駅西口周辺の活性化に生かされるのではないかと感じましたが、あくまでも民間を主軸にした体制づくりが必要で、民間が成功することによって持続することが可能となるという考えに共感できました。自治体側から仕掛けた訳ではないため、茅野市独自の形を模索することが大切で、茅野市の観光地としての高付加価値化も含め、一朝一夕で作り上げられるものではありませんが、民間事業者との協議を深めて外からの視点も取り入れながら、ス

ピード感を持って具現化していくことが望ましいと感じました。

茅野市においても、民間活力が主体となった「まちづくり」の手法が取れないか、十分検討する価値はあると思います。ただし、富良野市は病院撤退後の二千坪という更地の存在があつてこそその成功事例であり、茅野駅周辺の再開発もゼロベースで考えれば様々な構想も描けますが、現実はその簡単ではなく、難度の高さを再認識しました。

11月9日(木)

視察地 北海道 室蘭市

地域再生コンパクトシティの取組について

研修会場 室蘭市役所及びDENZAI 環境科学館・室蘭市図書館

研修・視察内容

日本製鉄北日本製鉄所のある室蘭市は、古くから「鉄のまち」として東北・北海道を代表する重化学工業・港湾都市と栄えました。しかし近年のいわゆる「鉄冷え」により産業衰退が進行し、人口も1975年のピーク時における約16万人から、現在では半分の約8万人にまで減少してしまいました。そのような中、室蘭市は平成30年に国土交通省が創設した新規施策「地方再生コンパクトシティ」のモデル都

市に応募、全国32都市の一つとして選定を受けました。これを契機に室蘭市は、空き家問題、駅周辺地区の再生、老朽化する公共施設の再編等の課題に積極的に取り組んでいます。

室蘭駅周辺市街地の目指す姿

- ・3つの広域交流の促進（道外、市外、市内）
- ・商店街の魅力向上等による地域活性化
- ・回遊性や総合プロデュース力の向上の取組により相乗効果を創出

これらにより交流人口拡大や地域の稼ぐ力の向上につなげ、賑わいの再生を目指しています。具体的な取組は、公共施設の集約（旧室蘭駅舎と隣接する公園を一体的に整備、図書館と科学館の複合化、市内のスポーツ施設を一か所に集約）、散策路への案内看板整備、まちなかにオープンスペースを創り、にぎわいづくりの実証実験を行う（キッチンカーの出没、ラジオ体操、小物製作ワークショップ、書道教室、コスプレイベント等、9か月間で80を超えるイベントを実施）等。

室蘭市の施策は人口減少への危機感や対策に重きを置いておらず、人口減でも持続可能なまちづくりを念頭に置いている方向性が斬新でした。

ただし、公共施設を市街地に集約することでエリア内に住む住民の移動の

利便性を図ることは大切ですが、図書館と科学館の集約がコンパクトシティの実現にどの程度の効果があるのかは疑問が残りました。

また、市内のスポーツ施設の一角所集約も、市民の理解をどの程度得ているのかが気になるところでした。



DENZAI 環境科学館・室蘭市図書館
愛称「えみらん」

茅野市での展開は

室蘭市の活動を手本とするならば、まずは茅野市のDMOをしっかりと機能させることが必要で、一部の人たちだけで動くのではなく、多くの市民や団体を巻き込んで「まちづくりは自分事」との考え方を浸透させていくことが大切だと感じました。

室蘭市のように、自発的にまちの賑わいづくりを担ってもらえる人材の発掘や、市民有志による活動の手助けなど、行政が後押しできる仕組みづくり

が必須で、民間が主導で、「まちづくり・賑わいづくり」を行政がサポートするという考えは、持続可能及び財政負担の軽減の観点からみて重要であり、見習うべきだと感じました。

しかしながら、室蘭市は地形がコンパクトで面積もそれほど大きくないため、コンパクトシティに向けての施策が成功しやすかったのだと思われる。居住域が扇状に広がる茅野市に当てはめるのは、なかなか難しいのではないかと感じました。

福祉教育

委員会

委員長	机 博 文
副委員長	梯 泰 弘
委員	向 山 平 和
委員	木 村 明 一
委員	小 尾 近 夫
委員	長 田 近 夫

市側随員

健康福祉部長 平 澤 精 一

議会事務局随員

主 査 太 田 法 子

11月8日(水)

視察地

兵庫県 明石市

① 少人数学級の取組と成果について

研修会場 明石市役所

研修・視察内容

全国どここの自治体も人口減少に伴う

少子化対策に取り組む中、明石市ではまち全体で子どもを核としたまちづくりを行い、9年連続で人口が増加しました。その経緯や、子育て政策等について、茅野市の取り組み「若者に選ばれるまち」及び少子化対策に役立てていくために、少人数学級の取組における成果と課題について研修を行いました。



明石市役所での研修

茅野市での展開は

少人数学級は、教員が生徒一人ひとりの特性や課題に目を配りながら指導できることを確認しました。茅野市が検討を始めた統廃合にあたっては、子ども学び環境の充実を念頭においた施設配置、人数配置がなされるよう、情報収集関係者協議を推し進めていく必要があります。不登校に対しては、

学校に戻れるための居場所づくりや、保護者向けリーフレットを作成し、ソーシャルワーカーとの連携や支援を行っている点が参考になりました。

② 離婚前後のこどもの養育支援について

研修・視察内容

明石市では、親が離婚したことによって心を痛めている子どもがいるにもかかわらず、子どもの声を代弁する者がいないのが実情で、子どもの立場に立った施策を段階的に進めるために、条例の制定や弁護士資格を有する職員を採用して、3つの基本理念を基に子どもの成長を応援する「明石市こども養育支援ネットワーク」を立ち上げました。その内容と成果についてお伺いしました。

茅野市での展開は

明石市の取り決め支援では、離婚前の取り決めを促すために参考書式を配布し、相談体制を充実させ、調停証書や公正証書などの債務名義作成をするための公費による助成を行い、養育費取り決めについての調停申立書の書き方や、必要書類の準備などの手続方法をアドバイスし、手続費用や作成費用を補助しています。養育費の公的立替え、面会交流支援など市が関わること

への効果は大きく、離婚前の養育計画を支援する体制が重要であると考えます。

11月9日(木)

視察地 兵庫県 相生市

子育て応援施策「11の鍵」について

研修会場 相生市役所
研修・視察内容

相生市は子育て支援の先進都市を目指すため、平成23年に「子育て応援都市」を宣言し、子育てしやすい環境を整え、人口減少や定住促進を推し進めるための定住促進関連事業を「11の鍵」として市内外へのPR展開をして



相生市役所での研修

います。子育て応援都市宣言に至るまでの経緯として、平成18年より第1期行財政健全化への取組を開始し、その中で年少人口が県下で最下位であるなど、将来の人口減少が最重要課題として浮き上がりました。

平成23年からの第2期行財政健全化計画による地域活力向上を目指すための人口減少対策、教育・子育て・少子化対策に重点を置き、行政資源の均一配分（あれもこれも）から脱却し「選択と集中」による自主的・自立的な地域経営を目指し、その姿勢を示すため、「子育て応援都市宣言を行い、子育て世代をターゲットに定住促進を図る」ことで、「11の鍵」を行政の横軸連携により展開されています。

「茅野市での展開は」

「11の鍵」の施策においては、茅野市における状況、財源、見込まれる効果について検討した上で、必要な施策については「若者を選ばれるまち」の取組にも応用できるものであり、わかりやすく方向性を示すための手法として参考にできるものでした。また、「あれもこれも」から脱却し、行政改革をやり遂げた上で進むべき方向性に歩んでいくまでのプロセスは茅野市が進んでいくべき姿と感じました。

一方で、子育て支援の成果を出すには、支援策の年齢層網羅と資金次第であり、歳入不足の懸念は非常に大きい

ものがあります。歳入確保のために、子育て支援により人口増を目指すことも選択肢としてはありますが、子育て支援はどの自治体でも行っており、特徴的、画期的な成果が見当たらず、期待した成果が得られるか、今後とも妥当な施策となり得るのかについては確信がありません。

11月10日(金)

視察地 岡山県 総社市

地域包括ケアの取組について ～介護予防の取組について～

研修会場 総社市役所
研修・視察内容

総社市の先進的取組である地域包括ケアは「住み慣れた地域で安心していきいきと暮らせるまち」を基本理念として推進し、基本理念の実現を目指すにあたり、「住み慣れた地域でいきいきと暮らせるまちづくり」「いつまでも安心して暮らせるまちづくり」「自分らしさを大切に暮らせるまちづくり」「効果的な介護サービス等が安定して受けられるまちづくり」の4つの目標を設定しています。

団塊の世代が後期高齢者となる2025年、団塊ジュニア世代が65歳以上となる2040年を見据え、地域包括ケアシステムをさらに深化・推進させ

るために、高齢化社会における地域の健康づくりや認知症対策に重点を置き、いきいき百歳体操やフレイル予防などの健康維持に向けた取組や、そうじゃSOSメール、みんなで見守るネットワーク、認知症事故救済制度、ワンストップサービスなども地域の安心と支援のために役立っています。

「茅野市での展開は」

いきいき百歳体操は、公民館のほかにも自宅でも開催できるので、リーダー不在でも行える仕組みになっています。リーダーといっても声掛けとDVDの操作程度のものであり、誰もが取り組めるものを導入しているため、茅野市の「足腰おたっしゃ教室」に参加できない人への対応に向けて参考となりました。また、認知症の行方不明時にSOSメールを活用して情報を収集し、認知症お守りシールの配布やSOS声掛けなどを行っており、行方不明時の情報収集や、地域見守りネットワークの構築には参考になります。SOSシステムは認知症高齢者の名前や特徴、写真などの情報を事前登録しておき、警察との連携のもとで行方不明になった時に「そうじゃおかえりサポートメール」を活用し、協力登録者に情報提供を行い、早期発見、早期保護につなげていくもので、茅野市においても検討していくべきだと考えます。

令和5年12月定例会

茅野市議会12月定例会は、11月29日(水)から12月19日(火)までの会期で開催されました。
市側提出議案13件、議会側提出議案1件が審議され、市側提出議案1件が否決された以外は、いずれも全会一致により原案のとおり可決されました。



各委員会における議案の審査

予算決算委員会 (12月12日)

委員長 小尾 一郎

議案第75号
令和5年度茅野市一般会計補正予算(第6号)について
全会一致で可決

この議案は、歳入歳出予算の総額に、歳入歳出それぞれ4億1千781万8千円を追加し、歳入歳出それぞれ360億4千7万円とするもの。
主な補正の内容(歳出)

- ・ 人事異動及び人事院勧告に伴う人件費2千646万9千円
- ・ 公立諏訪東京理科大学関連事業負担金1億5千571万6千円
- ・ 新型コロナウイルス接種体制確保事

業費国庫補助金など国県支出金等の過年度清算による返還金1億2千743万7千円

- ・ 住民基本台帳システム等の改修費1千163万8千円
- ・ 障害福祉サービス給付費1千500万円
- ・ 福祉医療給付等事業費4千555万円
- ・ 商工制度融資あつせん等事業費1千60万円

議案第76号
令和5年度茅野市国民健康保険特別会計補正予算(第1号)について
全会一致で可決

この議案は、歳入歳出予算の総額に、歳入歳出それぞれ3千574万2千円を追加し、歳入歳出それぞれ52億3千309万8千円とするもの。

- 補正の内容(歳出)**
- ・ 出産する被保険者の産前産後の国民健康保険税所得割額、均等割額の免

除措置に係るシステム改修委託料159万2千円
・ 保険給付費等交付金が超過交付となつた3千415万円の返還分

議案第78号
令和5年度茅野市一般会計補正予算(第7号)について
全会一致で可決

この議案は、歳入歳出予算の総額に、歳入歳出それぞれ4億2千538万9千円を追加し、歳入歳出それぞれ364億6千545万9千円とするもの。
補正の内容(歳出)

- ・ 物価高騰対応重点支援給付金支給事業費4億2千538万9千円

議案第66号
令和4年度永明小中学校社会体育館建設建築主体工事の変更請負契約について
全会一致で可決

この議案は、永明小中学校社会体育館の建設建築主体工事の請負契約について、急激なインフレーションに伴い請負金額が適当ではなくなったことから、請負契約書の規定に基づき契約内

容の一部を変更したため提出されたもの。

問 主体工事以外の電気工事など、変更の見込みはあるか。

答 主体工事のみで機械設備工事の請求はない。

議案第69号
茅野市組織条例の一部を改正する条例について
全会一致で可決

この議案は、令和6年4月に予定されている市の組織改正に伴い、関係規定を整備するもの。

議案第70号
茅野市副市長の定数を定める条例の一部を改正する条例について
少数賛成により否決

この議案は、令和6年4月から副市長の定数を2人とするため、関係規定を整備するもの。

問 副市長2人体制の具体的将来ビジョンは。

答 市長 行財政改革を取り組む上で、まちづくりのやり方を見直し、職員意識の変革、市民理解や持続可能な体制づくりが必要であり、「のらぎあ」やデジタル田園健康特区への取組、観光政策のDMOの戦略を進める上で、

対市民・対庁内の内向き対応と、対企業・国への外向き対応をしっかりとやるために、副市長2人体制が最善と考え

問 副市長の仕事の役割分担と2人体制の見直しは。

答 市長 現副市長の仕事を分業し、意思決定の際に市長に対して2対1で判断ができるので、3人体制のメリットがある。

問 条例文中の定数を2人と2人以内とするに差があるのか。

答 副市長 2人以内とすると、市長の裁量によって人事案件の中で問われることになるので、今回は明確に2人とし、議会に問うのが筋道であるから

問 厳しい財政下で市民に我慢を強いる中でのタイミングで、市民が納得しないのではないか。

答 市長 市民へは事業の節約ばかりでなく選択していくと説明し、その上で今が良いだろうと判断した。

問 報酬審議会へは白紙委任か、また決裁について2人も押印するの

答 同じ報酬を考えている。決裁はどこから一方の職責を担う副市長が行うが、情報共有をし、後閲して確認する。

問 副市長室改築の予算は。

答 既存の部屋で対応し、備品も庁舎内の既存のもので対応する。

問 市長の任期と合わせて考えると、いつまでを任期とする、と決める

いのか。

答 今回は決めず、1人に戻すときは議会に諮る。

問 副市長2人体制の役割分担や、事務分掌について。

答 市長 大筋には内向きと外向きに分けるが、すべての事に2人体制で臨む。

問 具体的人選について、女性や若い人の選択肢もあるのでは

答 市長 最適任者を選ぶ。

反対討論

環境や準備が整っておらず時期尚早なので反対。

財政が厳しい中、市民に我慢を強いる現状では市民の同意は得られない。反対する市民の声を多く聞く。市民の代表者としての議員の立場から反対。

2人体制は腑に落ちない。外交や観光等は現状の組織体制で良いので反対。

賛成討論

変革の時代において、住民意識の変革、職員意識や体制の見直しが求められる中で、内向きに行革推進を行う副市長と、外向きに市の魅力を磨き推進する副市長の2人体制が求められて

るので賛成。

議案第70号
茅野市副市長の定数を定める条例の一部を改正する条例について

本会議における賛否

賛成…○ 反対…● ※議長は採決には加わりません

長田近夫	望月克治	伊藤勝	野沢明夫	樋口敏之	小尾一郎	机博文	東城源	両角実晃	木村かほり	竹内巧	木村明美	波澤務	佐々木美智子	向山平和	梯泰弘	両角直樹
○	●	●	●	○	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●

これ以外の議案は、全て全会一致で可決されました。

議案第71号（審査日11月29日）
茅野市一般職の職員の給与に関する条例等の一部を改正する条例について

全会一致で可決

議案第77号
茅野市手数料徴収条例の一部を改正する条例について

全会一致で可決

この議案は、戸籍法の一部が改正されたことに伴い、戸籍電子証明書の提供用の識別符号、除籍電子証明書の提

供用の識別符号等の発行に係る手数料の規定を整備するもの。

問 戸籍事務処理の届書の件数及び、識別符号の事例は。

答 戸籍事務処理の届書は2千421件で、出生届、死亡届、婚姻届が

主なもの。識別符号の事例としてはパスポート申請時が挙げられる。

問 手数料とシステム改修の予算は。

答 識別符号と同時に取った場合には手数料は徴収しない。システム改修は令和4年予算ですでに完了している。

経済建設委員会（12月14日）
委員長 両角 実晃

議案第67号
市道路線の認定について（豊平塩之目地籍）

全会一致で可決

この議案は、道路法第8条第2項の規定により、宅地開発に伴う市道路線の認定について議会の議決を求めるもの。

問 道路延長の割には、幅員が6メートルもあるのはなぜか。

答 幅員を6メートル取ると、自動車の回転広場を設けなくてよい。回転広場を設けると、宅地の形状が悪くなるため。

議案第68号
市道路線の認定について
(玉川小堂見地籍)
全会一致 **可決**

この議案は、道路法第8条第2項の規定により、宅地開発に伴う市道路線の認定について議会の議決を求めらるるもの。

問 今回のような構造の道路側溝で、雨水があふれるようなことはないのか。あふれた場合、冬場は凍結して危険である。

答 土地の面積から雨水の量を計算し、必要ならば集水桝の数を増やすなどの対応をしている。今までに雨水があふれたり、それが凍結したような事例はない。

福祉教育委員会 (12月14日)
委員長 机 博文

議案第72号
茅野市家庭教育センター
条例を廃止する条例に
ついて
全会一致 **可決**

この議案は、茅野市家庭教育センターを廃止するために、関係規定を整備するもの。

問 家庭教育センター併設の男女共同参画センターはどうなるのか。

答 部屋はちの地区コミュニティセンター管轄の貸館とし、男女共同参画センターの看板を外して生涯学習課に持ってくる。

問 廃止後の施設の帰属変更と管理運営は。

答 施設の帰属先および管理運営はちの地区コミュニティセンターが担う。

問 廃止条例の附則において、違う条例の改正になるのは法令に合致しているのか。手続き上、適正なのかを判断する庁内の部署はどこか。

答 茅野市組織条例の第3条の分掌事務において、文書および例規に関することについては総務部が所管することになっている。その後、茅野市例規審査委員会において審査し、法令に適合していることを決定した。

問 法的に影響を及ぼすことはない、それぞれ独立した条例であると考えるが、家庭教育センター廃止条例の附則で地区コミュニティセンター条例の改正を行うことが可能であり妥当である理由は。

答 条例で同じ住所に設置される家庭教育センターとちの地区コミュニティセンターの2施設は、機能面、建物面とも一体的に運用してきた。今回の家庭教育センター条例を廃止する条例は、家庭教育センターの廃止を直

接の目的とし、地区コミュニティセンター条例の一部改正の原因になったと考える。原因となった条例の附則で改正することが可能であり、妥当であるということを法政執務上確認している。

問 施設をどうするのかという規定のないまま、ちの地区コミュニティセンターの使用料の改定がなされているが、廃止される施設の管理運営先を改定する条文は必要ないのか。

答 条例では面積の指定はなく、また行政管理上一体となった公の施設の拡充に伴う経緯の規定は必要なく、地方自治法に違反するものではない。ただし、今後所管替え等内部的な手続は必要となる。

問 改正前の地区コミュニティセンター条例に記載のない室名、使用料が出てくるが、室名と使用料の結び付けを規定する条例改正は必要ないのか。

答 条例において、使用区分、範囲、使用場所、室名について規定していないため、別表中の内容変更のみとする。

議案第73号
茅野市福祉医療費給付金
条例の一部を改正する
条例について
全会一致 **可決**

この議案は、福祉医療費給付金の支給対象者を拡大するため、条例を改正

するもの。

議案第74号
茅野市国民健康保険税条例の一部を改正する条例
について
全会一致 **可決**

この議案は、全世代対応型の持続可能な社会保障制度を構築するための健康保険法等の一部を改正する法律において地方税法等の一部が改正されたことに伴い、国民健康保険税の減額に関する規定を整備するため、条例を改正するもの。

議案提出議案

議案第18号
決議案の提出について
(ガザ地区における戦闘
休止及び人質の即時解放
に向けた取組の継続を
求める)
全会一致 **可決**

議案第18号の決議書
本文は、茅野市議会
ホームページをご覧ください。



茅野市議会 検索

茅野市の課題を問う！

12月定例会一般質問通告一覧 ①

	件名	要旨
両角	1 少子化が急速に進行する中、茅野市の小・中学校教育の状況と将来のあり方について	(1) 「小中一貫教育」今までの成果と今後について (2) 義務教育学校制度の導入の検討について (3) 宮川小学校のリノベーション計画の見直しについて
直樹	2 超高齢化に伴い増え続ける認知症患者への対応について	(1) 認知症患者への対応の現状について (2) 認知症に伴う「老老介護」世帯の把握と対応について (3) 「終活」の普及について
佐々木美智子	3 「のらぎあ」の現状の課題と今後の改善策	(1) 運行エリアの拡大について (2) 持続可能な運行体制について (3) 予約が取りづらい状況と運行の改善について
佐々木美智子	4 人口減少社会における空き家問題とまちづくり	(1) 空き家の現状や実態把握について (2) 空き家の発生抑制や適正管理の促しについて (3) 不動産を負の資産にしないための有効活用について
両角	5 家庭系可燃ごみの有料化について	(1) 有料化の背景とねらい、導入時期について (2) 有料化に対する市民の反応について (3) 有料化に向けたスケジュールについて
実晃	6 市民のスポーツ離れに対する対応について	(1) 「市民1スポーツ」に向けての取組について (2) 運動部活動の地域移行への取組の進捗状況について
小尾一郎	7 通学カバン等の身体的負荷と児童の心身への影響について	(1) 児童の背負う、また、手に持つ教材等の総量についての市の見解 (2) 通学カバン等の中身ごとの重さの経年変化とその原因 (3) 通学カバン等の身体的負荷とそれが学童の心身に及ぼす影響についての市の見解と学校ごとの認識 (4) 通学の仕方についての市の方針と学校ごとの指導 (5) 文科省が認めた「置き勉」を受けての市の方針及び対応と学校ごとの指導
木村明美	8 循環型社会の取組について	(1) ごみ処理の現状について (2) 3Rの取組と今後の考え方について (3) 市民協働の取組について
野沢明夫	9 今後の投票所運営のあり方について	(1) 期日前投票所を含む各投票所における現状実績は (2) 時間繰り上げの内容は (3) 期日前投票所の増設について
野沢明夫	10 中学校における休日の運動部活動の地域移行について	(1) 県教育委員会「長野県中学生期のスポーツ活動指針」に準じるか、または地域活動の独自性があるか (2) 中体連との関係における問題はあるか (3) 日本スポーツ協会公認コーチ等、取得の経費の助成について
野沢明夫	11 コミュニティ施設の拠点数と人員体制の見直しについて	(1) 「機能ごとに分割してあり方検討する」を含み、具体的内容はどのようなものか (2) 「建物改修は行わない」とは何を意味するのか (3) 地域移行（民営化）や総務省「集落支援員」の活用はどうか
机博文	12 生活環境保全条例改正後の現状と課題について	(1) 改正後の状況について (2) 住環境から見た改正条例について (3) 人的交流や経済の活性化等のまちづくりの視点について (4) 空き地の利活用や荒廃地防止の視点について

12月定例会一般質問通告一覧 ②

件名		要旨
木村かほり	13 茅野市の不登校対策について	(1) 茅野市の不登校の現状について (2) 「校内、市のこどもサポートセンター」等の相談について (3) 「不登校児童生徒が民間施設及び学校外等で相談・指導を受けている場合に関するガイドライン」について (4) 適応指導教室の名称について (5) 不登校支援の目指すものについて
	14 茅野市子どもの居場所づくり推進事業について	(1) 事業の現状について (2) 事業の成果について (3) 事業の今後について
洪澤務	15 区・自治会の課題解決について	(1) 地区及び区・自治会の現状と今後について (2) 地区及び区・自治会選出役員の現状と今後について (3) 課題解決に向けた取組について
伊藤勝	16 茅野市のコミュニティ・スクールについて	(1) 文科省型コミュニティ・スクールになった理由は (2) 文科省型になり各コミュニティ・スクールの経費はどうなるのか (3) 各コミュニティ・スクールの人選は誰がしているのか (4) コミュニティ・スクールの認知度UPの施策は
	17 道路整備事業の現状について	(1) 路肩の草刈りについて (2) 市役所前の道路改修状況について (3) 道路パトロールの現況は
竹内巧	18 ちの観光まちづくり推進機構が担うものは	(1) DMOに対する現状評価について (2) DMOと観光課の役割分担について (3) DMOの事業・経営に対する行政の関与について
	19 滞在型観光の波及効果について	(1) 小津安二郎記念・蓼科高原映画祭の事業効果について (2) 「実施方法、規模について検討」という見直しの方向性について
梯泰弘	20 公共施設使用料の見直しについて	(1) 基本的な考え方について (2) 算定基準について (3) 見直しスケジュールについて
向山平和	21 家庭系可燃ごみの有料化と市民生活への影響について	(1) 家庭系可燃ごみの排出量の推移と今後について (2) 有料化による家計への影響について (3) 有料化以外に家庭系可燃ごみを減量する方法について (4) 家庭系可燃ごみの減量化について市の取組は (5) 事業系ごみについて
東城源	22 市が区・自治会に選出を求める役員の必要性について	(1) 市が求める役員の必要性は (2) 区・自治会が設置する役員について (3) 区・自治会の負担を軽減するための市の取組について
望月克治	23 来年開催が予定されているスワコエイトピークスミドルトライアスロンについて	(1) 昨年の開催後に反省会は開かれましたか (2) 実行委員会では交通渋滞を引き起こした原因は何だと考えていますか (3) 来年の開催は、昨年の開催と同様に行われるのですか
望月克治	24 デジタル田園健康特区について	(1) DXは市民にあまねく全員に使ってもらうことを目指すのですか (2) デジタル田園健康特区は市民の理解を得られていますか (3) 理解を深めるための手法は進んでいますか

一般質問での実際のやりとりは、ぜひ動画をご覧ください！

本会議や一般質問等の録画映像がホームページからご視聴いただけます。実際の質問の様子、市側の答弁について、ぜひ動画をご覧ください。また、同ホームページ内の『会議録検索システム』により、会議録の閲覧もできますのでご利用ください。

茅野市議会



録画映像



会議録

まんなかに愛のある **未来会議**

会場
茅野市ひと・まちプラザ

令和5年11月14日、26日に茅野市ひと・まちプラザにて、茅野市議会意見交換会を開催いたしました。今回の意見交換会は「まんなかに愛のある未来会議」と題し、市民の皆さまから未来に向けたアイデアを広くお聴きするために、ワークショップ形式といたしました。より多くの方にご参加いただけるよう、平日の夜と日曜日の午前の開催とし、14日（火）は12名、26日（日）は14名のご参加をいただきました。

総務環境、経済建設、福祉教育の3常任委員会ごとのテーブルに委員の議員3名を配置し、参加者はすべてのテーブルを回り、テーマごとにご意見・アイデアを付箋に書いて貼りながらお話しをしていただきました。若い方から高齢の方まで、幅広い年代の皆さまから活発なアイデアを出していただき、多様なご意見は非常に参考になりました。いただいたアイデア・ご意見は委員会ごとにまとめ、今後の議会活動に活かしてまいります。

11月14日（火）夜の部



11月26日（日）昼の部



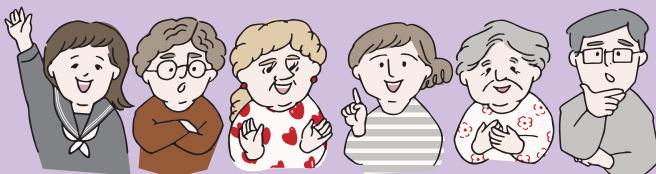
過去の意見交換会は、茅野市議会ホームページをご覧ください。

茅野市議会



次号（第49号）予告（5月1日発行予定）茅野市議会意見交換会の詳細

みなさんも傍聴にお越しくください！



市議会の本会議及び各常任委員会は誰でも傍聴ができます。予約の必要はありません。本会議の傍聴を希望される方は、直接議会棟3階までお越しくください。事務局への連絡は不要です。なお、委員会の傍聴をご希望の方は、事前に議会事務局までご連絡ください。

3月定例会本会議予定

- 2月22日（木） 開会、提案説明、先議案件採決
- 3月1日（金） 議案質疑、委員会付託
- 3月5日（火） 一般質問
- 3月6日（水） 一般質問
- 3月7日（木） 一般質問
- 3月19日（火） 委員長報告、採決、閉会

※変更される可能性もあります。詳しくは議会ホームページでご確認ください。

